

(平成 23 年度研究報告書)

課題番号 76 地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究

三上 春夫 千葉県がんセンター研究局がん予防センター

研究の分類・属性

疫学・公衆衛生・がん対策

研究の概要

研究班は日本におけるがん診療の中核的施設である全国がん（成人病）センター協議会（以後全がん協と記載）加盟施設を対象に、がん生存率の計測とがん診療における質的向上を課題として、個別症例データ集計と施設現況調査の結果を公表する。また全がん協加盟 31 施設中 20 施設が都道府県がん診療連携拠点病院であることから連携拠点病院指定要件の達成度を計測する。これらの調査を通じてがん診療成績の向上を計測するためのがん統計を明らかにし、さらに情報発信の観点から情報提供を医療機関に限定せず、がん情報を求めている患者、行政を含む広範な社会的利用の場に提供していく。

平成 23 年度研究経費

9,204 千円

研究班の組織

三上 春夫	千葉県がんセンター研究局がん予防センター・部長	地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究
西本 寛	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報統計部院内がん登録室・室長	地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究
猿木 信裕	群馬県立がんセンター副センター長	地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究
丸山 洋一	新潟県立がんセンター新潟病院・臨床部長	地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究
篠田 雅幸	愛知県がんセンター中央病院・センター長	地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究

淡田 修久	大阪府立成人病センター・副院長	地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究
岡村 健	国立病院機構九州がんセンター・病院長	地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究

研究の目的と到達目標及び実績要点

全期間（目的と到達目標）：

全がん協生存率算定用個別データを収集し、Web 上で集計するシステムとして公開する。がん診療の質（QI）を集計するためのデータ収集ソフトを作成し、全がん協加盟施設の施設現況調査とともに収集する。作成したソフトをがん診療拠点病院に向けて提供していく。

第2年次

（到達目標）

- 1) 2004年診断症例個別データの収集とデータベース化、Web集計システムの改良
- 2) 2011年施設現況調査の実施と全がん協QI指標の収集ソフトの開発
- 3) 全がん協加盟施設別生存率データ(2007年公開)の更新

（年次評価時点の実績要点）

- 1) 1997～2003年診断症例の個別症例データベース19万8千件を作成しアクセス集中対策のため集計結果キャッシュ機能を実装、加盟施設によるWeb集計システムの動作試験を実施した。
- 2) 2011年施設現況調査を実施。DPCデータを解析し、がん診療の質を集計するソフトのプロトタイプを作成した。
- 3) 施設別5年生存率データを集計更新した。

研究成果と考察

第2年次評価時点

- 1) 5年生存率データセットとして1997年診断～2003年診断症例で19万8千件を収集した。生存率Web集計システムの試験運用を開始した。試験運用では、一般公開用集計と組織型別や治療法別を含むより詳細なデータ提供施設用集計に分けて生存率を提供することとし、施設長の承諾を得ている。さらに生存率を理解するための解説小冊子を作成した。
- 2) 2007年に本研究班の前身猿木班が公表した施設別5年生存率のデータを更新した。こちらも施設長の承諾を得た。

倫理面への配慮

本研究に使用する院内がん登録は患者情報を直接扱うため、『医療・介護関係事業者における個人情報取扱いのためのガイドライン』およびその中で厚生労働省が別途定める指針である『医

療情報システムの安全管理に関するガイドライン』に従う。また研究としての解析を行う場合は『疫学研究に関する倫理指針』に従ってこれを行う。研究班として全がん協施設より収集する生存率解析のための資料は、患者個人の同定指標を除外する。医療情報技術の進歩は急速であり、それに伴って法令や指針に想定していない倫理上の問題が発生する可能性があるため、個人情報保護や社会的対応に関わる組織を研究班として構築する方針である。

これまで全がん協研究班データは連結不可能匿名化されたデータないし集計値で、個人同定不能のデータとして幹事施設の倫理審査を通さずに収集してきた。しかし DPC データや院内がん登録データのリンク指標を持ったデータを収集するに当たり、医療内容の詳細を含み、データセット収集と匿名化過程で個人情報保護に配慮すべき点が増大したため、幹事施設として倫理審査委員会に諮った。千葉県がんセンター倫理審査委員会において研究計画書通りの内容で指摘事項なしの承認を得て実施を進めている。また平成 22 年度には診療の質(QI)研究の一環として病理診断の質に関する研究を企画し、病理診断報告書の収集元である千葉県がんセンターおよび解析機関である四国がんセンターの倫理審査を受審し、承認を得たところである。

本研究に関連する、本研究期間中の主な発表論文等

平成 22 年度

(雑誌論文)

1. 篠田雅幸, 渡辺幸子. 病院の枠を越えた DPC データの活用(パート 2) がん医療の質向上をめざす CQI 研究会の試み. 日本医療マネジメント学会雑誌; 11(Suppl): 84, 2010.
2. 東尚弘, 中村文明, 岡村健, 島田安博, 祖父江友孝. 胃癌診療の質指標の作成と検証のための多施設共同研究. 日本胃癌学会総会記事; 82: 240, 2010.
3. 丸山洋一. 病状予後告知は誰のために行なうのか? 職員と患者に対するアンケート結果より. 県立がんセンター新潟病院医誌; 49巻2号 Page110-111, 2010.
4. 小澤壯治, 日月裕司, 田中乙雄, 篠田雅幸, 宇田川晴司, 松原久裕, 馬場秀夫, 竹内裕也, 小山恒男, 室圭, 宇野隆, 手島昭樹, 沼崎穂高. 【消化器癌治療成績のさらなる向上に向けて】臓器がん登録の現状と将来展望 臨床へのフィードバックを目指して 食道癌全国登録の現状と将来展望. 外科治療; 102巻4号 Page353-357, 2010.
5. 田中政宏, 幸谷安恵, 田口賀子, 松尾茂子, 道平恵子, 若林榮子, 飯石浩康, 淡田修久. がん専門病院におけるセカンド・オピニオン外来の質的評価. 癌の臨床; 56巻1号 Page63-69, 2010.

(学会発表)

1. 三上春夫. 生存率Web集計ソフトKapWebの進捗状況. 第1回がん登録インフォーマティクス研究会(横浜市). 2010.
2. 竜崇正, 浜野公明, 清水秀昭, 篠田雅幸, 三浦猛, 吉田功. がん専門病院のDPCデータのベンチマーキングによるがん医療の質向上と標準化の試み. 第65回日本消化器外科学会総会(下関), 2010.

3. 田中政宏, 中山富雄, 飯石浩康, 淡田修久. セカンドオピニオン外来の役割 癌患者会と全国がんセンター協議会加盟施設を対象としたセカンド・オピニオン質的調査. 第48回日本癌治療学会(京都), 2010.

4.

(書籍)

1. 三上春夫. 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1998年~2002年診断症例). がんの統計' 10, がんの統計編集委員会編, がん研究振興財団(東京); p20-21, 84-85, 2010.
2. 浜野公明, 三上春夫. 院内がん登録. がん診療ハンドブック改訂第2版, 千葉県がんセンター編, 永井書店(大阪); p74-76, 2010.

(知的財産権) 該当なし

(政策提言(寄与した指針等)) 該当なし

(その他)

平成 23 年度

(雑誌論文)

1. 丸山洋一. 当院におけるオピオイド鎮痛薬の使用動向 8年間の推移. 県立がんセンター新潟病院医誌;50巻2号 Page148-153, 2011.
2. 波戸岡俊三, 安部哲也, 丹羽由紀子, 福井高幸, 伊藤志門, 光富徹哉, 篠田雅幸. 食道がんにおける他臓器重複癌の解析. 日本食道学会学術集会抄録集; (65) Page219, 2011.
3. 平野真紀, 浦久保安輝子, 篠田雅幸, 渡邊清高. 地域における患者・市民との協働に基づく情報作成「患者必携 地域の療養情報 愛知版」の検討. 医療の質・安全学会誌; 6巻Suppl. Page230, 2011.
4. 田中政宏, 中山富雄, 飯石浩康, 淡田修久. 【セカンドオピニオン外来の役割】 がん患者会および全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における担当医師を対象とした、がん医療におけるセカンド・オピニオンに関する質的調査. 癌の臨床; 56巻10号 Page755-760, 2011.
5. 岡村健. 平成21年度から始まる臨床研究体制の再編 政策医療ネットワークからグループ研究へ 国立病院機構がん診療連携拠点病院におけるがん診療の均てん化の評価に関する共同研究からみた共同研究の問題点と今後の課題. 医療; 65巻9号 Page483-486, 2011.

(学会発表)

1. 三上春夫. がん登録の行く末~社会に向けて. 地域がん登録全国協議会第20回学術集会(千葉市), 2011.
2. 三上春夫. 全がん協生存率Web集計システムKapWebの改良. 第2回がん登録インフォーマティクス研究会(千葉市). 2011.

(書籍)

1. 三上春夫. 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999年~2003年診断症例). がんの統計' 11, がんの統計編集委員会編, がん研究振興財団(東京); p20-21, 72-73, 2012.

2. 三上春夫. がんの時代を生き抜くために～がん生存率のデータから分かること. 地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究班編, 千葉県がんセンター研究局がん予防センター(千葉). 2012.
3. 三上春夫. がん登録の行く末～社会に向けて. JACR Monograph No17, 三上春夫, 高山喜美子, 津熊秀明編, 地域がん登録全国協議会(東京)

(知的財産権) 該当なし

(政策提言(寄与した指針等))

1. がん登録の推進に関する追加提言書. 全国がん(成人病)センター協議会. 2011.
2. 地域がん登録全国協議会第20回学術集会声明. 地域がん登録全国協議会学術集会. 2011.